

第1回 津市大門・丸之内地区 未来ビジョン策定委員会分科会

分科会名	未来志向の都市づくり 分科会	経済活性化、地域資源の 活用分科会	エリアの価値向上分科会
開催日時	令和4年7月19日（火） 午後2時30分～ 午後4時30分	令和4年7月20日（水） 午前10時～正午	令和4年7月20日（水） 午後2時～午後4時
開催場所	津市中央公民館ホール		
出席者	【分科会員】 川合 幸児、須川 正之、 大西 香穂、高橋 絢子、 寄詰 真也、岩田 英里、 奥田 博貴、鵜飼 真帆、 葉山 怜、酒井 亮、 山口 尚利 【委員会委員】 辻 正敏、藤牧 和弘	【分科会員】 村田 敦也、高野 英一、 岡本 恒、豊田 真、 奥山 元彦、新堂 洋一 岩田 英里、平西 明日香、 酒井 亮、山口 尚利 【委員会委員】 辻 正敏、藤牧 和弘	【分科会員】 若松 雅徳、三澤 直樹、 金峰 知彦、服部 諒、 黒田 崇郁、岩田 英里、 鈴木 聡一、酒井 亮、 山口 尚利 【委員会委員】 辻 正敏、藤牧 和弘
事務局	【事務局】 都市政策課都市整備・新都心軸担当主幹 畠山 和之 商業振興労政課商業振興担当主幹 西出 智康 都市政策課都市整備・新都心軸担当副主幹 山岡 健司 都市政策課主査 吉村 千尋、都市政策課主事 松村 優里		
公開又は非公開	公開		
傍聴者	5名	5名	7名

議事次第

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 分科会員自己紹介
- 4 議 題
 - (1) 分科会長・分科会副会長選出
 - (2) 分科会長・分科会副会長挨拶
 - (3) 分科会の役割及び進め方等について
 - (4) 大門・丸之内地区の将来像について
- 5 その他連絡事項
- 6 閉 会





議事概要

1 開会

2 委員長挨拶

3 分科会員自己紹介

4 議 題

(1) 分科会長・分科会副会長選出

(2) 分科会長・分科会副会長挨拶

(3) 分科会の役割及び進め方等について

- ・事務局より説明（資料：分科会の役割及び進め方）

(4) 大門・丸之内地区の将来像について

分科会員同士で意見交換を行い、地区の将来像の検討、地区の課題の掘り下げ及び整理を行った。概要は以下のとおり。

【未来志向の都市づくり分科会】

① 快適に歩き、回遊できる、歩きたくなる、移動しやすいエリアの形成

- ・歩きやすい道づくり、道路や沿道の魅力化など、歩きたくなるエリアの形成
- ・津駅や津新町からのアクセスの向上、エリア内のバス停や公共駐車場から快適に移動できる案内、新しいモビリティの導入

② 人が滞在するエリア、人と人が出会い交流できるエリアの形成

- ・時間を過ごしてもらえる様な場所や魅力の創造
- ・大門・丸之内に来れば誰かに会える、交流できる場や機会の創出
- ・年齢、性別、国籍、居住地、障害の有無などに関わらず、多様な人が滞在し、楽しみ、学び、活動できるなど、誰でも受け入れる環境づくり

③ 歴史を学びながら、地域のよさの発信

- ・お城公園、津観音、観音公園等の歴史資源を活用し、地域の歴史や成り立ちを学ぶことができる機会の提供
- ・津市の良さを再認識し、SNS などで発信したくなるような場や仕



掛けづくり

④ 安全・安心・清潔を大切にしたエリアの形成

- ・防災・防犯・交通安全等など、安全に安心して住んだり、訪れたり、活動できるエリアの形成
- ・清掃などの美化、公園や道路の緑の管理、季節ごとの特徴的な花の植栽など、清潔で快適なエリアの形成

⑤ 未来技術を積極的に導入し、活用するエリアの形成

- ・にぎわいづくり、歴史の活用、安全安心、快適な移動などにおいて、未来技術を先取りし、歴史と未来が調和したエリアの形成

⑥ 道路空間の有効活用

- ・自動車、自転車、歩行・回遊、新しいモビリティなどによる将来に向けた道路空間の活用方法の検討

⑦ 県内外から観光客が集まるエリアの形成

- ・お城公園、津観音、観音公園を活用して、三重県、津市を代表する観光エリアの形成
- ・公園や広場で食べる、飲食店で食べる、食べ歩きができるなど、様々な楽しみながらの飲食

【経済活性化、地域の資源活用分科会】

① 地域らしさ、場が持つ力を活かした魅力の創出

- ・大門・丸之内地区の歴史・文化、空間の持つ力を最大限に引き上げ、観光客や市民が楽しめる魅力の創出
- ・公園、広場空間の整備や各種イベントなど、ハード・ソフト両面からの魅力の向上

② 若者・子どもを引き込むきっかけ・仕掛けづくり

- ・若者や子どもが行きたいと思えるようなきっかけ・仕掛けの提供
- ・観音公園の遊具・ステージ設置などの整備、子どもが興味を持つイベントの開催
- ・まちづくりの担い手として学生を取り込む活動の実施

③ 空き地・空き家・空き店舗などの資源の活用

- ・空き店舗・空き地・空き家のリノベーション等による歩いて暮らせる、楽しいまちの形成
- ・空き地の再編による来街者向けの駐車場の整備、利便性の高い移動



手段の提供

④ 店舗・団体・まちの一体化

- ・ 商業者、各種市民活動団体、民間企業など、地区内外の参加によるまちづくりの推進
- ・ 予算等の継続性の確保などによる持続可能なまちづくりの推進

⑤ 伝わりやすい情報発信

- ・ 多様な媒体によるきめ細かで定期的な情報発信

【エリアの価値向上分科会】

① 日常的な滞在人口の増加

- ・ 企業、大学、専門学校、学習塾、店舗などの誘致により日常的に地区にいる人を増やす
- ・ 空きテナントや空き店舗を活用し、色々な人が色々な関わりができる場づくり

② 働く人、近所の人などが訪れ、滞在できるエリアの形成

- ・ 市内や地区周辺から気軽に行け、ピクニック、散策、買い物、食などができるエリアの形成（川辺・公園・芝生広場など）、レンタサイクル、キックボードなどの移動手段の提供、案内サインの設置、ガイドの実施、地域の歴史・文化などの資源を活用したイベント開催

③ 若者が集い、出会い、交流し、楽しむことができるエリアの形成

- ・ 若者の学びの場、学生と社会人の出会いの場づくり
- ・ 若者が地区に関わることができる場、機会づくり

④ 魅力的な空間を整備し、歩きたくなるエリアの形成

- ・ 歩きたくなるように「見て」、「触れて」、「憩う」ための場づくり
- ・ 緑化、清掃などで屋外空間の日常的な管理、水と緑の魅力を向上
- ・ 商店街で行燈の設置などの景観づくり、ユニバーサルデザイン

⑤ 子どもと子育て世代にとって便利なエリアの形成

- ・ 託児所や保育所の設置、放課後の子ども支援、外国人向けの日本語教室、学習塾の実施など、子どもをきっかけに地区へ人が来る仕掛けづくり

⑥ 目的地となるコト・場の創出

- ・「歴史・文化を活かす」、「緑、芝生広場などでピクニックできる場をつくる」、「学びの場、楽しめる場をつくる」、「対話、出会いができる場をつくる」など、ここに来る目的を作る
- ・まちプレイヤーとして、色々な人が関われる場、活躍できる場をつくる

⑦ 暮らす場としての魅力の向上

- ・暮らしの場として、高齢者向けには医療、買い物などの生活インフラの維持、子どもや子育て世代へは安心・安全、子育て支援の充実、若者にはおしゃれさ、楽しみなどの魅力の充実

5 その他連絡事項

- ・第2回分科会は8月下旬に開催を予定

6 閉 会

